

2023（令和6）年度ちびっと食堂@くらし活動報告書

開催頻度 年間開催回数	①【子ども食堂】育徳コミュニティセンターを借りて毎週水曜日16:30より実施。49回開催。延べ参加人数843名。 ②【学習支援】2022年10月開始。毎週土曜日18:00より実施。42回開催。延べ参加人数321名。 ③【海あそびSUP体験会】2022年7月開始。年間4回。延べ参加人数43名。		
取り組んだ福祉課題 ・地域課題	コロナ感染拡大防止を受けて、より一層家庭での生活が重要視されることとなり、家庭の役割が大きくなったことから、ひとり親世帯や独居世帯の生活のしんどさが浮き彫りになった。誰でも参加できる食堂でひとり親世帯や独居世帯の人が集い、孤食を防ぎ、世代間理解をはぐくむことを目的に、子どもを中心として、子どもだけではない世帯が気軽に集える居場所を作りたい。		
具体的な活動内容	子ども食堂	学習支援	海あそびSUP体験会
①活動目的	孤食を防ぎ、世代間理解をはぐくむことを目的として毎週1回子ども食堂開催。	気軽にわからないところをボランティア学生に聞くことができる場所の提供を目的に毎週1回開催。	自然の中で遊ぶ機会提供を目的に二色浜海水浴場で年4回実施。
②活動内容	毎週水曜日16時より、育徳コミュニティセンターを借りて開催。毎食20食の弁当持ち帰りとお土産より送られたレトルト食品等のフードパントリー実施。（2021年9月より喫茶「藍朱」を借りて開始。2023年2月より育徳コミュニティセンター。2024年7月より育徳コミュニティセンターマゼルバにて毎週金曜日。）	地域の小学生から高校生までの子どもを対象に、ボランティア学生から、気軽にわからないところを聞くことができ、その子どもに合わせた学習支援を毎週土曜日西田辺会館にて開催。	二色浜海水浴場に行き、SUPインストラクターの指導の下、SUP体験を行う。
③対象者	ひとり親世帯の子どもや独居高齢者など対象。	家庭学習を十分にできないひとり親家庭の子どもなどを対象。	海を見たことがない外国籍の子ども、家族との旅行などが少ないひとり親世帯の子どもなどを対象。
④対象地域	大阪市南部地域		
⑤平均参加者数 (子ども・大人内訳人数) ※スタッフ除く	大人5子ども15	8(子どものみ)	大人3子ども7
⑥利用料金	大人300子ども100	無料	どちらも1000
⑦その他(地域の特性、運営面で困っていること等)	本当に必要な世帯に届いていない。	ボランティア確保。広報活動。	
実施により解決できた福祉課題・地域課題	○世代間理解：独居高齢者等と子どもたちが気軽に話もでき、交流を円滑にすることができた。独居高齢者等が集う場所に子どもが参加することから、交流を円滑にすることができた。育徳コミュニティセンターでは前の保育園児や学童の子どもたちの参加から、交流できた。 ○学習支援では新たな学生ボランティアも増え、子どもたちの宿題、勉強、遊びと幅広く活躍してもらえた。また、少人数であることからレトルト食品やホットプレートでできる軽食を子どもたちと作って食べるということができ、孤食回避の一助となった。 ○海あそびSUP体験会では、多くのボランティアの参加もあり、家庭より海などに行く機会の少ないひとり親世帯の子ども、外国籍の子どもが参加でき、大自然の中海あそびが体験できた。		
運営メンバーの構成や人数・シフト体制等	①【子ども食堂】社協や大阪府等公的な食材調達を代表伊藤を中心に行い、寄付の食材は副代表金沢が担当する。調理は代表伊藤、副代表金沢、高橋が担い、配膳は代表伊藤、副代表金沢、高橋、赤松が担当する。 ②【学習支援】代表伊藤が教材などの準備を行い、副代表金沢が軽食準備。ボランティアとのやり取りは代表伊藤。全体の広報(チラシ作成とデザイン)は庶務浜谷が担当し、会計は高橋が担当する。会計監査は西山が担当。		

<p>地域との協力体制</p>	<p>①大阪市阿倍野区子育て支援連絡会：ボランティア養成講座、新聞発行、親子フェスタを開催し、当団体も参加してボランティア加入の機会となる。 ②大阪市阿倍野区社会福祉協議会：フードパントリーによる食材の提供を受ける。種々活動の相談、ボランティアの調整。 ③大阪市地域子ども支援ネットワーク：助成金の情報提供、子ども支援活動map掲載、食材の情報提供。 ④他地域子ども居場所団体（大阪市東住吉区、岸和田市）：食材の提供、情報交換。 ⑤育徳コミュニティセンター（社会福祉法人所有）、西田辺会館（地域）を借りて活動中。</p>
<p>利用者への広報の方法</p>	<p>①チラシ配布（上記団体への配布および周辺地域ポスティング） ②SNS（Facebook毎週更新、Instagram） ③大阪市地域子ども支援ネットワーク：子ども支援活動map掲載 ④ 大阪市市民活動総合ポータルサイト（シミボタ）の活動報告</p>
<p>その他 （運営面で心がけていること、実践の特徴等のPR）</p>	<p>①食品を扱う上で、衛生管理に配慮し、夏場は特に食中毒に気を付け、消毒等を十分に実施する。 ②人が集まる場において、消毒、換気など感染症対策を十分に行う。 ③SNS投稿において、個人情報に十分配慮し、写真は必ず加工を行う。 ④【学習支援】など子どもが参加する活動は、ボランティア側の進行だけではなく、子どもがやいことができるよう、プログラムを組み立てる。</p>